

研究雑話 (73)

人間発達の物質的基礎 (三七) .. 論議 (八)、問題の所在、拍節二音における「裏拍」の調節

藤井力夫

前回は、イメージを呼び出す音韻ループの回路の問題についてお話ししました。自閉症児の場合、視覚的なものが強くて、ことばで呼び出し・まとめるということが苦手なようです。流れをつくる拍節自体に問題があります。「拍節」については何回かお話ししました。たとえば、「サムライ」の拍節は「サム」と「ライ」。この内、「ム」とか「イ」が「裏拍」。この部分は次の拍節を準備する役割をも担っています。ところが、Rくんの場合、通常より高くなったり、長くなったりして、次の準備を難しくしてしまいます。格助詞を付けにくい所以です。なぜなのか、今回は、準備の基本をなす歩行パターンに注目してお話したい。

図Aは、前号のスペクトル包絡図を楽譜にしたもの。1は、絵本「三びきのこぶた」でのやりとり。2は、絵本終了後、想い出したとき彼自身の自然なことばの旋律。いずれも、四分の二拍子、テンポ一〇〇。各フレーズ、2秒前後です。図Bは、Rくんの歩行時の左右足底の着床パターン（踵・拇趾球・親指）。以前、記した開発装置で実施（雑話六八）。拍節リズムとの対応では、左足接床が前拍、右足接床が後拍に相当。裏拍は、拇趾球部の接床と対応。Rくんの拇趾球部着床は遅かったり（左足）、早過ぎたり（右足）。とても不安定。が、身体レベルでの一つの基礎です。次への「間」づくりには干渉して当然です。

A-1. 対話的叙述の採譜 (R. m. 8. 01. 前号参照)

♩=120

/* O. TOU / TOBU. TA * (HA) /

/ REN. GANO / IE. GA (WO) * /

/* TSU. KURI / MASHI. TA * /

A-2. 音韻的リハーサルの採譜 (R. m. 8. 01. 同上)

♩=120

/ SAMU. RAI / SAMU. RAI /

/ O - . KAMI / - GA. * (NAN. KA*) /

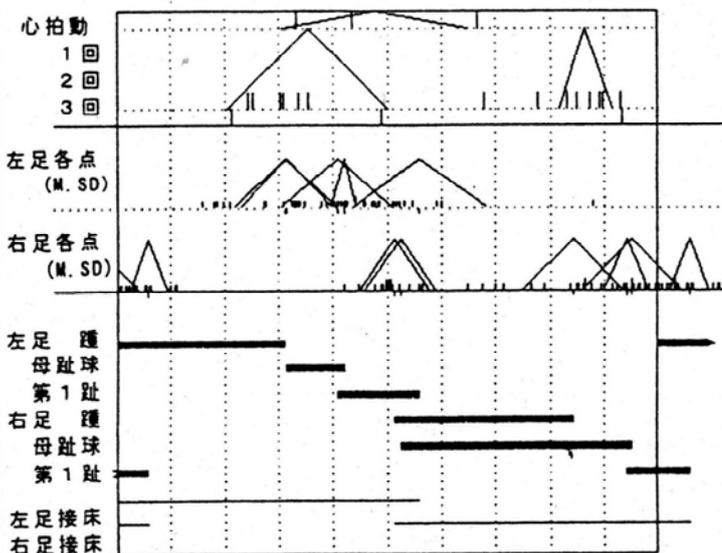
/ KOWA. KU - / NAI. YO - /

/* KU. BIGA / NAGA. KUTE /
(KUBI). (WONA) (GAKU). (SHITE)

/* FU. - KI / TOBA. SHITA /
(FUKI). (TOBA) (SHIMA). (SHITA)

B. Rくんの歩行のリズム (サイクル内・足趾パターン)

(歩行: 117.7/min. 心拍: 99.532/min)



1019.36 (±69.79) msec

(注: 安定した11サイクルにおける各位相の重ね合わせ、平均と分散。上から、心電R波拍動、左右の足趾各点の接床・離床。)

／オ・トウ／トブ・タ〇／…「ウ」と「ブ」の音価長く、「タ」で切れてしまう。「ブ」が短ければ、格助詞「は」は入れ易い。／レン・ガノ／イエ・ガ〇／…「レンガ」も「イエ」も、「ン」と「エ」で音高上昇、アクセント逆転。／ツ・クリ／マシ・タ〇／…「リ」で音高上昇。／サム・ライ／サム・ライ／…「ム」と「イ」で音高上昇。／オー・カミ／ガ・〇／…とくに「ミ」の音価延長、次の拍節の表まで長音化。／コワ・クー／ナイ・ヨー／…「ワ」の音高、三度も上昇。終助詞「ヨ」、長音部上昇。／ク・ピガ／ナガ・クテ／…「ナガクテ」の「ガ」で音高上昇。／フ・キー／トバ・シタ／…「フ」、次の拍節の表まで延長。

(北海道教育大学教授)